



産肉性に優れた名古屋コーチンの肉用新系統「NGY7」が完成

名古屋コーチンの新しい肉用系統「NGY7」が完成しました。

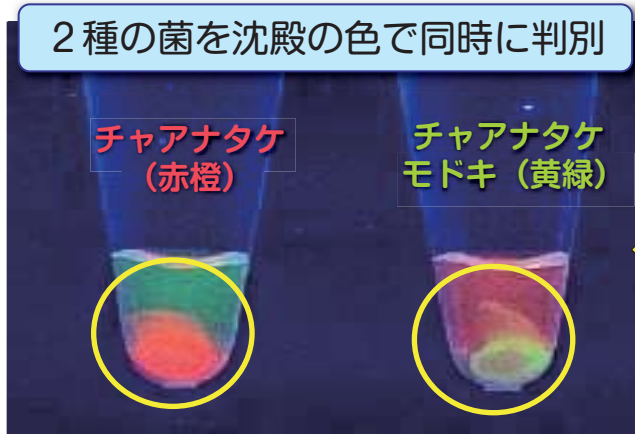
育種改良された小集団を系統と言いますが、系統鶏は世代を重ねるほど近親交配により能力が低下するため、定期的に更新しなければなりません。そこで、平成16年から新系統の開発に取り組んできました。

新系統は、これまでの肉用系統と比べ成鶏時（250日齢）の体重が約10%アップし、ストレスにも強く、生存率が高い特長を持っています。

「NGY7」を利用すると、産肉性の高い肉用名古屋コーチンの生産が期待できます。「NGY7」を用いた鶏肉は、平成31年夏から出荷されます。

（畜産研究部）

ナシ萎縮病菌の簡易迅速診断法を開発



本研究は科学技術振興機構のA-STEPにより実施しました。

ナシ萎縮病の新たな診断法として、LAMP法とキリによる試料採取法を組合わせた簡易迅速診断法を開発しました。

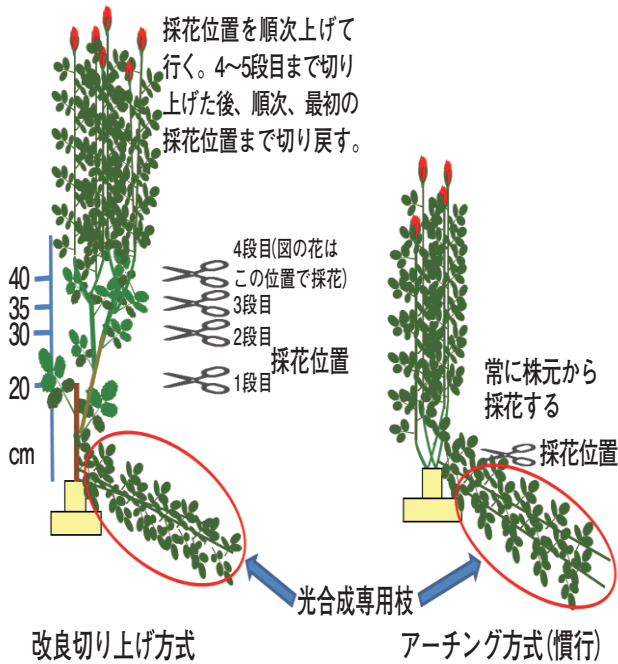
ナシ萎縮病は、「幸水」に発生が多く、ナシ産地で大きな問題となっていますが、一旦罹病すると治療法がなく、被害の拡大を防ぐため、早期の伐採が必要です。

しかし、初期の症状は生理障害と区別が付きにくく、正確な診断が必要となります。これまでの診断方法は、ナシの主枝を切断して樹を大きく傷つける試料採取法と、時間のかかる分析法によるものでした。

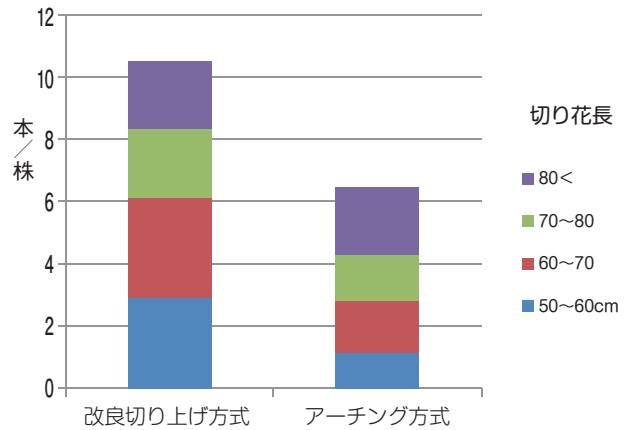
今回開発した方法は、樹を痛めることなくキリで診断用試料を少量採種し、LAMP法を使って、2つの病原菌(チャアナタケ、チャアナタケモドキ)を同時に診断できます。これによりナシ萎縮病の診断が、簡易で迅速にできるようになりました。

(環境基盤研究部)

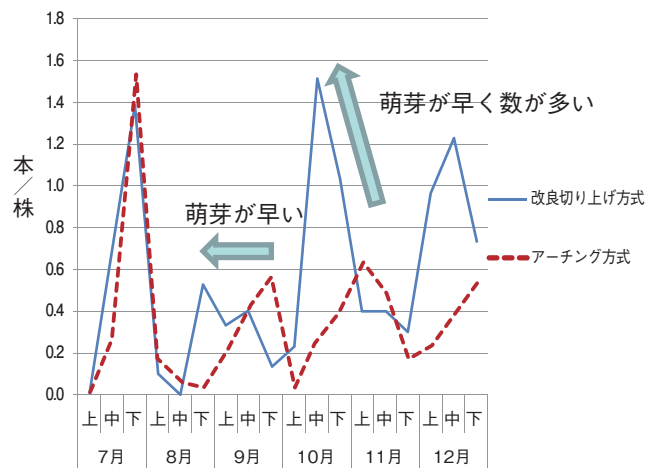
樹形管理方法の改善でバラ切り花の収量増
—改良切り上げ方式で収穫本数が増加します—



樹系管理方法模式図



階級別切り花本数 (7月~12月、品種：サムライ08)



本研究は、農林水産省委託プロジェクト「収益力向上のための研究開発」により実施しました。

県内のバラ生産農家の多くで、ロックウール等を利用した養液栽培が行われ、樹形管理方法として光合成専用枝を養成し常に株元から採花する「アーチング方式」が主流となっています。

アーチング方式は、長く重い上位階級が多いことや、収穫方法が単純で経営面積の拡大に都合が良いことから全国に普及しましたが、収穫本数の少ないことが欠点です。

そこで、需要の多い長さ(60~80cm)の切り花が多く収穫でき、所得の増加に繋がる樹形管理方法「改良切り上げ方式」を開発しました。

この方式は、光合成専用枝を養成した後、採花位置を一定の高さで順次上げていく樹形管理方法で、アーチング方式に比べ萌芽が早く、萌芽数も多くなります。その結果、収穫本数を約1.5倍にすることが可能となりました。

(園芸研究部)

研究トピックス

ナシの売れる要因が明らかに!

買い手のニーズを反映したナシの生産技術確立のため、市場・仲卸の流通業者、直売施設等の販売者、一般消費者に対するアンケート調査を平成28年度に実施しました。

調査結果から、8月上～中旬は贈答用、8月中～下旬をピークに10月上旬までは家庭消費用のニーズがあり、流通では小玉で日持ちの良いもの、販売と消費では糖度が高く着色の進んだ中玉以上というニーズが明らかになりました。

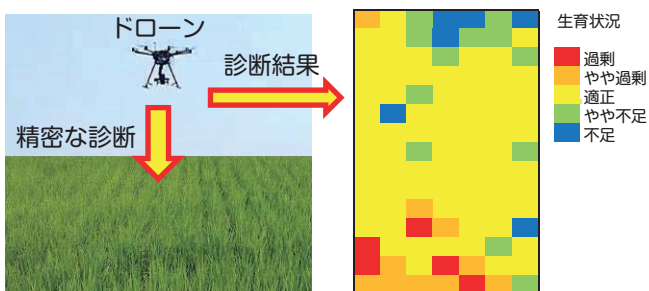
(企画普及部)



ドローンと可変施肥機を活用した良食味米生産技術の開発に着手

良食味米生産には、生育診断に基づく栽培管理が必要ですが、経営面積の大規模化に伴い、省力的かつ精密な栽培管理技術が求められています。そこで今年度から、県が育成した水稻新品種「愛知 123 号」を対象に、ドローンや可変施肥機等を用いて省力的で精密な生育診断や施肥自動化等を行い、良食味米生産技術の開発を進めていきます。

(作物研究部)



ドローンによる生育診断 生育診断結果のイメージ

本研究は「新稲作研究会委託試験」で実施予定です。

土壌被覆資材を利用したカンキツ「みはや」の高品質生産

農研機構で育成された新品種「みはや」は、収穫時期が11月下旬と早熟で、果皮の赤みが強く見栄えが良いことから、今後普及が見込める品種です。しかし、夏秋期に雨が多いと低糖度になることが問題となっています。そこで、8月中旬から収穫終了まで土壌被覆資材(マルチ)で雨水を遮断することにより、雨の多い年でも糖度が上昇し、着色も早まることを明らかにしました。

(園芸研究部)



カンキツ「みはや」

果実品質と完全着色日

区	果実重	糖度(Brix)	完全着色
	g	%	月/日
マルチ	155.2	13.3	11/2
無処理	160.0	10.8	11/9

頭上散水で「スプレーアイチ夏1号」の高温期の黄斑点症状が軽減

県が育成したキク品種「スプレーアイチ夏1号」は、美しい黄色の花を咲かせる夏向け品種ですが、高温期の葉に黄斑点が発生する問題があります。対策を検討した結果、少量・多頻度の頭上散水により、黄斑点の発生を大幅に軽減することができました。今後、この方法をさらに改良して高温対策技術の確立を目指すとともに、「スプレーアイチ夏1号」の普及拡大を図ります。

(東三河農業研究所)



頭上散水



葉の黄斑点症状

研究短報第118号

編集・発行 愛知県農業総合試験場
〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1
TEL 0561-62-0085 内線322(企画普及部)
FAX 0561-63-0815
<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>